

部局名

農学部 植物生産環境科学科

担当:本勝 千歳

テーマ

日向夏の種ができないメカニズムに迫る



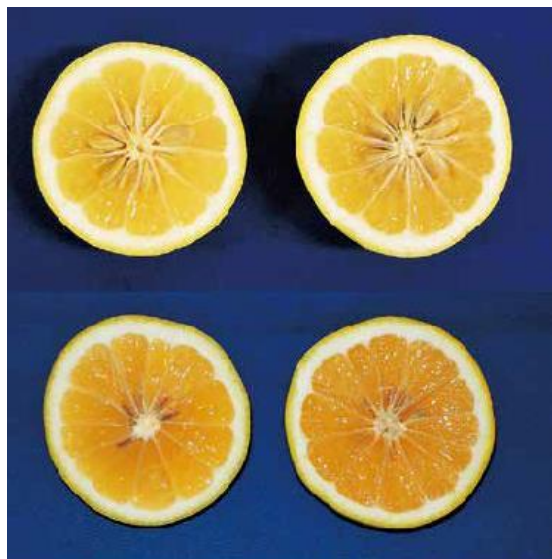
日向夏は、普通に栽培すると種がたくさん入り、食べるのに不便です。種のない日向夏も売られていますが、これは栽培方法を工夫することで作られています。一方で、特別なことをしなくても種の少ない日向夏ができるシステムが見つかっています。

私は、このシステムではどうして種ができないのかについて研究しています。また、このシステムを利用して全く種ができない新しい日向夏を創り出すことができないかについても研究しています。



詳細内容はQRコードから確認できます

のうがく図鑑: <https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-agrenv/post-34.html>



上の写真は通常の日向夏の果実で、多くの種があることがわかります。下の写真は‘西内小夏’という種が少ない系統で、種が痕跡程度になっています。この系統の種はどうしてこのようになるのかについて調べています。



これは日向夏の種の中にある「胚」とよばれる部分の写真です。種が少ない系統はこの胚の成長が途中で止まってしまうことが分かってきました。



種が少ない系統を使って、試験管の中で新しい植物を育てています。これが成長して新しい種なし系統ができることを期待しています。